

ドイツ語（初級A）／Aドイツ語 第12回 命令文、分離動詞、非分離動詞

範囲：教科書第8課 A, B (S.32-34)

《今回の基本例文》

39. Bleib zu Haus! (CD42-1)
(お前は) 家にいろ！
[du に対する命令形 (命令法)]
40. Antwortet auf meine Frage! (CD42-3)
(お前たちは) 私の問いに答えろ！
[ihr に対する命令形 (命令法)]
41. Fahren Sie mit der U-Bahn! (CD42-2)
(あなたは／あなたがたは) 地下鉄で行ってください。
[Sie に対する命令形 (接続法)]
42. Sei vorsichtig! (CD43-1)
(お前は) 気をつけろ！
[sein の命令形 (命令法)]
43. Lies laut! (CD44-1)
(お前は) 大きな声で読め！
[幹母音が e→i/ie に変音する動詞の命令形 (命令法)]
44. Der Zug fährt pünktlich ab. (CD45-2)
その列車は時間通りに出発する。
[分離動詞]
45. Kannst du mich morgen wieder anrufen? (CD47-4)
明日もう一度、(君は) 私に電話できるかな？
[分離動詞＋話法の助動詞]

I 命令文

A. 命令文 (S. 32)

1 命令形 (基本公式)

du に対する命令形：語幹！ / 語幹＋e!

ihr に対する命令形：語幹＋t!

Sie に対する命令形：不定詞 Sie!

・ du や ihr に対する命令文は主語なし、Sie に対する命令文のみ主語あり。

◇ 英語とは異なり、ドイツ語の命令形には、du (2人称親称単数) に対するもの、ihr (2人称親称複数) に対するもの、Sie (2人称敬称単数、複数) に対するものの三種類がある。

◇ 普段 **du** や **ihr** を用いて話している相手に対しては **du** や **ihr** に対する命令形 (「~しろ!」, 「~して!」) を、**Sie** を用いて話している相手には **Sie** に対する命令形を使用する (「~してください」)。

◇ 命令形のつくり方については、

- ・基本公式 (この [1] で扱っているもの)
- ・sein ([2])
- ・単数 2・3 人称で幹母音が e → i/ie に変音する動詞 ([3])

の 3 パターンを覚えればよい。

◇ **du** に対する命令形の基本公式は、

- ・語幹のみ、もしくは語幹+e (現在人称変化の 1 人称単数と同じ) + 感嘆符。
- ・ただし、arbeiten 型 (教科書 S.9) や、-ern, -eln, -igen など終わる動詞 (教科書 S.10) については、必ず語幹+e になる。

◇ **ihr** に対する命令形の基本公式は、

- ・語幹+t (現在人称変化の 2 人称複数と同じ) + 感嘆符。
- ・ただし、現在人称変化の **du** や **er** に語調を整える e が現れる動詞 (arbeiten, finden など ⇒教科書 S.9) については、必ず語幹+et になる。

◇ **Sie** に対する命令形の基本公式は、語幹+en (不定詞と同じ) のあとに主語 **Sie** を添える。**Sie** に対する命令形は決定疑問文と同じかたちになるが、疑問符ではなく感嘆符を用い、発音は文末を上げず下げる。

```
.....  
: Sprechen Sie Deutsch?  
: あなたはドイツ語を話しますか?  
: Sprechen Sie Deutsch!  
: ドイツ語を話してください。  
.....
```

* 上記の三つのうち、厳密には、**du** に対する命令形と **ihr** に対する命令形は「命令法」(直説法、命令法、接続法の三つの「法」のうちの一つ) であるが、**Sie** に対するものは「接続法」(授業第 11 回で少し説明したように英語の仮定法に相当するもの) である。これらをまとめて扱うため、便宜的に「命令形」や「命令文」という言葉を用いている。

** **du** や **ihr** に対する命令形では主語が要らず、**Sie** に対する命令形だけ主語が必要になる理由も、前者が命令法、後者が接続法であることである。一般に、命令法では主語を必要としない (英語ほかを参照)。

◇ これらの命令形と一緒に使用できる副詞的表現としては、

- ・依頼を表す **bitte** (英語の *please* に相当)
 - * 何度か出てきた動詞 *bitten* (*vt.* 頼む、願う) の 1 人称単数系。

などがある。

* ほかに、強意を表す **nur** や **doch**、「ちょっと」の意味になる **mal** もあるが、いまは覚えなくてよい。

2 sein, werden の命令形

《sein の命令形》

du に対する命令形 : Sei!

ihr に対する命令形 : Seid!

Sie に対する命令形 : Seien Sie!

- ◇ sein の命令形は、すべて „sei“ が現れる不規則なかたちをとる。
 - ・ du に対しては **Sei**
 - ・ ihr に対しては **Seid**（現在人称変化の 2 人称複数と同じ）
 - ・ Sie に対しては **Seien Sie...**
- ◇ werden の命令形は、語幹が -t や -d で終わる規則動詞（arbeiten 型）と同じと考えて差し支えない。

3 単数 2・3 人称で幹母音が e → i/ie に変音する動詞の命令形 (S. 33)

《e → i/ie 型の命令形》

du に対する命令形 : 変音あり (e → i/ie) 語幹!

- ◇ 教科書第 3 章で学んだ、単数 2・3 人称で幹母音が変音する動詞のうち、
 - ・ a → ä 型 : 基本公式と同じで変音はしない。
 - ・ e → i/ie 型 : du に対する命令形は変音し、なおかつ語尾に -e はつけない。 ihr および Sie に対する命令形は基本公式と同じ。
- ◇ 例えば、sprechen の du に対する命令形は、ich spreche, du sprichst, er spricht... と変化するため、この i が反映され、Sprich! となる。
- ◇ e → i/ie 型の du に対する命令形の代表例は以下の通り（覚えておくとよい）。
 - ・ essen : **Iss!**
 - ・ geben : **Gib!**
 - ・ helfen : **Hilf!**
 - ・ lesen : **Lies!**
 - ・ nehmen : **Nimm!**
 - ・ sehen : **Sieh!**
 - ・ sprechen : **Sprich!**

補足 命令形のまとめ

不定詞	対 du	対 ihr	対 Sie	備考
lernen	Lern! / Lerne!	Lernt!	Lernen Sie!	基本公式
arbeiten	Arbeite!	Arbeitet!	Arbeiten Sie!	現在人称変化に e が現れる動詞
ändern	Ändere!	Ändert!	Ändern Sie!	-ern, -eln で終わる動詞
helfen	Hilf!	Helft!	Helfen Sie!	幹母音が e → i に変音する動詞
sehen	Sieh!	Seht!	Sehen Sie!	幹母音が e → ie に変音する動詞
sein	Sei!	Seid!	Seien Sie!	sein（完全不規則）
werden	Werde!	Werdet!	Werden Sie!	werden（実は基本公式に従う）

II 分離動詞と非分離動詞

B. 分離動詞 (S. 33)

補足 複合動詞について

前綴り + 基礎動詞 = 複合動詞

- ・ 文の定動詞にした際、前綴りが分離するもの: 分離動詞
- ・ 文の定動詞にした際、前綴りが分離しないもの: 非分離動詞

◇ ドイツ語には、**前綴り** + 基礎動詞という構成の複合動詞が存在する。すでに何度か登場した、
verstehen = ver + stehen (⇒教科書 S. 30)

複合動詞 前綴り 基礎動詞

などが該当する。

* 複合動詞の発音は基礎動詞に準拠する。verstehen の場合、st は語中ではなく語頭という扱いとなり、[ʃt]の音となる。

◇ 複合動詞には次の 2 種類があり、

- ・ **分離動詞**: (文の) 定動詞として使われる際、前綴りが基礎動詞から分離して文末に移動する。前綴りはアクセントを持つ。

aufstehen = auf + stehen ... auf-にアクセントあり

分離動詞 前綴り 基礎動詞

- ・ **非分離動詞**: 定動詞として使われる際、前綴りが基礎動詞から分離しない (一般動詞と同じ)。前綴りはアクセントを持たない。

verstehen = ver + stehen ...ver-にアクセントなし (stehen にアクセントあり)

非分離動詞 前綴り 基礎動詞

このような分離動詞は、ドイツ語における独特な要素といえる。

* 英語の *give up* のような句動詞に相当するものが分離動詞と考えられる。

◇ ただし、分離動詞において前綴りと基礎動詞が分離するのは、文の定動詞にした場合のみである。不定詞としては前綴りと基礎動詞が分離しないかたちで存在するので、辞書にもそう載っている。

* 辞書などでは、分離動詞であることを明示するため、aufstehen のように、便宜的に前綴りのあとに | をつけることがある。もちろん、実際の文章では用いない。

◇ 分離動詞の前綴りは、

- ・ auf|stehen (起き上がる) の auf-など前置詞
- ・ teil|nehmen (参加する) の teil-など名詞 (Teil *m.* 部分)
 - * an *et*. teil|nehmen (3 格) に参加する (=take part in ~)
- ・ fern|sehen (テレビを見る) の fern-など形容詞
- ・ zusammen|fassen (～を要約する) の zusammen-など副詞 (zusammen *adv.* 一緒に)
- ・ kennen|lernen (～と知り合う) の kennen-など動詞

のように、前置詞、名詞、形容詞、副詞、動詞と多様であり、ほぼ元の語の意味を保存している。

** ただし、前綴りの元の意味 + 基礎動詞を合算するだけでは意味を類推できない場合も多いので、分離動詞が出て来たら必ず辞書を引くこと。

1 分離動詞の語順

基礎動詞 → 第 2 位（定動詞の位置）

前綴り → 文末

◇ 分離動詞が主文の定動詞として用いられるときは、前綴りは基礎動詞（の人称変化形）から分離して文末に置かれる。図示すれば、

第 1 位	第 2 位	第 3 位以下	文末
…	基礎動詞（現在人称変化）	…	前綴り

* 分離動詞の前綴りを文末に置く語順も、「定動詞と関係の強い要素ほど文末に移動させる」という**枠構造**の一種である。念のため復習すると、これまで登場した「定動詞と関係の強い要素（→文末）」は、

- ・ 4 格目的語（⇒教科書 S. 14）
- ・ 移動の目的地（⇒教科書 S. 15 など）
- ・ 話法の助動詞を用いた文における不定詞（⇒教科書第 7 課）

であった。

◇ 例えば、分離動詞 **mit|bringen** (*vt.* 〈4 格〉を持つてくる) を用いて「君はワインを 1 ビン持つてくる」と言いたいときは、まず基礎動詞 **bringen** を定動詞第 2 位の位置に、前綴り **mit** を文末に置く。次に、**bringen** を主語（君＝du）に合わせて **bringt** に現在人称変化させる。目的語など、それ以外の要素は **bringt** と **mit** のあいだに入ればよい。疑問文や命令形も同様に考える。

.....
: Du bringst eine Flasche Wein mit.

: 君はワインを 1 ビン持つてくる。

: Bringst du eine Flasche Wein mit?

: 君はワインを 1 ビン持つてくるか？

: Bring eine Flasche Wein mit!

: (君は) ワインを 1 ビン持つてこい！

.....
* eine Flasche は助数詞。（⇒授業第 11 回配付資料 S. 5）
.....

2 話法の助動詞＋分離動詞の語順 (S. 34)

◇ 前述のように、分離動詞において前綴りと基礎動詞が分離するのは、文の定動詞にした場合のみであり、不定詞としては前綴りと基礎動詞が分離しないかたちで存在する。

◇ このため、話法の助動詞を用いた文において分離動詞を不定詞として用いるときは、分離動詞は前綴りと分離しないかたちで書かれる。

◇ 例えば、分離動詞 **anfangen** (*mit et³. anfangen* という熟語で「〈3 格〉に着手する」の意味になる) を用いて「彼はすぐ仕事をはじめなければならない」と言いたいときは、まず「～なければならない」を意味する話法の助動詞 **müssen** を定動詞とし、分離動詞 **anfangen** を不定詞のまま文末に置く。もちろん、**müssen** を主語（彼）に合わせて **muss** に現在人称変化させる。**mit+3 格** など、それ以外の要素は **muss** と **anfangen** のあいだに入ればよい。

.....
Er muss sofort mit der Arbeit anfangen.

彼はすぐ仕事をはじめなければならない。
.....

3 非分離動詞

基本的に普通の動詞と同じ扱いをする。

- ・文の定動詞にしても、前綴りと基礎動詞は分離しない。
- ・前綴りではなく基礎動詞にアクセントがある。
(・ただし、過去分詞には特有の規則がある。)

◇ 非分離動詞に関しては、前綴りは基礎動詞と分離せず、アクセントも持たない。つまり、普通の動詞と基本的に同じ扱いをする。

* ただし、のちに学ぶ過去分詞については、普通の動詞と異なったつくり方をする。 (⇒教科書 S. 44)

◇ 非分離動詞の前綴りには、非分離動詞に特有の前綴りと、分離動詞と非分離動詞に共通して用いられる前綴りの 2 種類が存在する。

・非分離動詞特有の前綴りは、be-, emp-, ent-, er-, ge-, miss-, ver-, zer- の 8 種類である。

* 分離動詞の前綴りが前置詞、名詞、形容詞、副詞、動詞であるのと異なって、非分離動詞の前綴りは独立した単語ではなく、分解しても意味を類推するのは困難である。

** 一応、be-は自動詞の他動詞化、emp-や ent-は除去、miss-は失敗、ver-は媒介や失敗、zer-は破壊などの機能や意味がある。辞書にはこれら前綴り自体の項目があり、その種の情報が記載されている。ただし、例外が極めて多い。例えば、entstehen (vi. 生じる) や verstehen (vt. ～を理解する) は、上記の意味からは説明できない。

*** よって、非分離動詞が登場したときは、前綴りと基礎動詞の足し算で意味を推測しようとせず、すぐ辞書を引くことが重要である。

・分離動詞と非分離動詞に共通の前綴りは、durch-, hinter-, über-, um-, unter-, wider-, wieder など、ほぼ前置詞か一部の副詞に由来するものである。

* 分離動詞と非分離動詞に共通して用いられる前綴りがついている動詞のなかには、まったく同じ複合動詞でも、分離動詞として使うときと非分離動詞として使うときで意味が異なるものがある。

übersetzen vi. 対岸に渡る、vt. ～を対岸に渡す

übersetzen vt. ～を翻訳する

** 一般に、分離動詞は具体的意味、非分離動詞は抽象的意味という傾向がある

練習問題の補足

Übung 3 (S. 34)

5. an et³. teil|nehmen は分離動詞を用いた熟語で、「〈3 格〉に参加する (=take part in)」の意味。

連絡先など

教員のメールアドレス：tokan@nifty.com 授業のウェブサイト（進捗表示、配付資料あり）：<http://hasegawa.la.coocan.jp/lecture/>